

平成 30 年度 とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 議事要旨

日時：平成 30 年 8 月 27 日（月）

13:30～15:00

場所：富山県民会館 701 号室

■ 出席者

【委員】

大野委員（代理：能澤副市長）、木内委員、田瀬委員、永森委員、南部委員、福濱委員、藤井委員、藤本委員、水野委員、横越委員

【事務局】

須河生活環境文化部長、今井生活環境文化部次長、松本県民生活課長（ほか関係課担当職員）

■ 会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について

（2）水源地域保全条例に基づく届出状況について

（3）「とやま 21 世紀水ビジョン」の見直しについて

（4）その他

4 閉 会

（1）「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について [事務局説明]

【議長】

地下水の保全の中で涵養の話があったが、具体的に事業としてはどのようなものか。

【事務局】

平成 17 年度に国、県、魚津市と連携してモデル事業を実施しました。その結果を取りまとめて「地下水涵養マニュアル」を策定しています。それに引き続き、平成 24 年度にも県内 4 箇所県が主体となり、モデル事業として地下水涵養を直接実施しました。その段階でも地下水涵養を実施する際の手続きを取りまとめた手引きを策定しています。

現在は、これらマニュアルや手引を活用し、各市町村や関係団体に涵養を実施していただるように普及啓発している段階です。現在、県内複数箇所地下水涵養が実施されており、県といたしましては、そちらに技術的な支援をしている状況です。

【議長】

成果は上がっていますか。

【事務局】

実際に地下水涵養を実施している団体によると、どの程度の面積で涵養量がどのくらいあるといった、地域ごとの浸透の仕方の違いがわかってきています。

【議長】

(洪水浸水想定区域図において、) 想定し得る最大規模の降雨ということで、千年に1度という話がありましたが、どのくらいの量の雨でしょうか。

【事務局】

1,000年というのは目安であり、例えば降雨量の設定に用いる北陸地域での過去最大の降雨が年超過確率で言えば千年に1度以上ということになります。具体的に24時間雨量でいうとどのくらいかということについては、今手元に資料がございませんが、近年、河川の計画雨量以上の雨が降っているということを踏まえて、国や県で新たな洪水浸水想定区域図を作成しているところです。

【議長】

次に2番目の「水源地域保全条例に基づく届出状況について」事務局から説明願います。

(2) 水源地域保全条例に基づく届出状況について [事務局説明]

【議長】

全国的に水源地を脅かす問題があるということで制定した条例ですが、関連して森林所有者の不明状況の解決について、何か方法はありますか。

【事務局】

難しい問題で、今すぐに解決できるものではありませんが、森林に限らず、所有者不明の土地の問題については、国のほうでもいろいろと方策を検討されているようであり、注視していきたいと考えています。

【議長】

3番目の「とやま21世紀水ビジョンの見直しについて」事務局から説明をお願いします。

(3) とやま21世紀水ビジョンの見直しについて [事務局説明]

【委員】

水ビジョン全体のイメージとしては、安心・安全ということで、治水・利水の部分(の見直し)が多い。

環境の問題で言うと、上流部の森林の保全は生物多様性の保全にもつながり、荒廃は多様性の低下につながる。そういったことをイメージしながら、いろいろな事業を展開していくといった基本的な考え方も大事であり、見直しの方向性においても、生物多様性という視点も取り入れることが必要ではないか。

【議長】

防災体制の評価という点では、このところの災害でいろいろな課題がたくさん出てきている。例えば連携だとか、連絡方法だとか、そういうものも少しアレンジして、具体的に盛り込んでいけばいいのではないか。

汚染処理水の有効利活用の中に消雪水として使うというアイデアはいかがでしょうか。（場所はかたよるということはあるかもしれませんが・・・）

また、消雪用パイプを利用して真夏に打ち水をやる、あるいは涵養までできるのかどうかご検討いただきたい。

資料に富山県の気候予想がありましたが、雪の評価はありませんでしたか。

【事務局】

雪については、ございませんでした。

【議長】

水を生かした文化・産業の発展では、冊子、パンフレット、小中学校生対象の副読本みたいなものが普及啓発に必要ではないか。

【委員】

地下水の利用について、最近新しいものとしては、その熱を冷暖房に使うというものがあり、黒部市のほうでやっている。エネルギーとすれば富山県全体でかなりあるということになるので、水ビジョンの中でも有効利用、多面的利用という点で、地下水の持つ熱エネルギー利用というものも検討してみればどうか。

【委員】

この冬の大雪では、地下水への依存が高い中で取り合いになるのでしょうか、水が少なくなりました。夜、道路の消雪パイプが凍結してしまうため、融雪を完全に止めてしまうことはできない。最近では昔よりも深く掘らないと地下水が上がってこなくなっており、さらに深く掘り直したりしている。

地下水で生活しているが、飲み水としても、水道水よりもおいしいと思う。

【委員】

子供たちに森と水の仕組み、循環について話そうとした時に片貝川、早月川に一滴の水も流れておらず、(景観的にも) 困ることがある。がらがら地帯で、水が全部地下に浸透してしまうと聞くと、上流の農業用水などの取水を調整して、もう少し何とかならないかと思う。

水ビジョンの中には小中学生に対する環境教育に関するものがあまりないように思うので、もう少し力を入れたほうがいいのではないか。

【委員】

世界的に見ても、日本の水環境の良さは貴重なものになっていくと思う。商品としての水も、これからは安いだけでなく、質が問われる時代になっていくと思う。山の保全、生活用水、工業用水、農業用水等の処理によって日本海は大変きれいな状態を維持しており、そこから得られる海洋深層水もまた医学会(再生医療など)で使われるなどしている。

県をあげて、そういった環境を維持していこうという(水ビジョンのような)総合的な指針を策定している県は少ないと思うが、もっと外に対して、「富山県はこうやって山、海を含めての施策を進めている結果、良質な水環境を維持できている。」とPRする必要があるのではないか。そうすることによって、「とやまの水」の質の良さのアピールにもつながり、産業界をバックアップすることにもなる。

以 上